

総合資料館あり方検討プラン

プラン策定の趣旨

総合資料館の機能や取り巻く環境の変化等を踏まえ、今後の資料収集の基本方針・貴重な所蔵資料の府民還元方策を検討し、府民に魅力ある施設となるよう、総合資料館の果たすべき役割・機能の方向性を提案します。

現状と課題

現 状

総合資料館は、昭和38年、京都に関する資料等を総合的に収集・保存・展示して調査研究等一般の利用に供する施設として開設されました。

この間、国宝の「東寺百合文書」^{とうじひやくごうもんじょ}をはじめ国重文指定の古文書・京都府開庁以来の行政文書、多くの図書資料等、一級の研究価値を有する資料や美術・工芸品等を収集・保存・展示するなど、博物館機能^{*1}、公文書館機能^{*2}、図書館機能^{*3}を併せ持つ複合施設として、学術・教育・文化の発展に大きく寄与してきました。

総合資料館の機能や取り巻く環境が大きく変化しており、利用者数の減少や多様化する府民ニーズへの的確な対応などが求められています。

<主な環境変化等>

- ・京都文化博物館開設（昭和63年）に伴う美術・工芸品等の展示機能の移転
- ・公文書館法施行（昭和63年）など、公文書の収集・保存・利用の社会的要請
- ・府立図書館新築（平成13年）に伴う40万冊に及ぶ図書の移管 など

課 題

京都のみならず日本の歴史・文化に関する資料の宝庫ともいべき当館は、100年、200年、さらにその先を見据え、今後も、府の公文書・古文書・図書資料等、京都に関する資料を一層積極的・的確に収集・保存し、府民の財産として将来に確実に継承することが求められています。また、そのために良好な保存環境の確保が強く求められています。

電子決裁システムの進展などによる公文書の電子データ化にも対応できる、京都府全体の公文書の収集・保存・利用に向けたシステムの構築が求められています。

人々の学習要求の多様化・高度化やインターネットなど情報通信技術の発達等の変化を踏まえ、所蔵資料のより積極的な活用・情報発信を図るとともに、調査研究・支援機能を充実させ、京都や日本の歴史・文化について幅広い生涯学習の機会を提供することが求められています。

-
- *1 「博物館機能」：歴史、芸術、民俗等に関する資料を収集・保管・展示して、一般の利用に供し、教養、調査研究等に資するための事業や調査研究をする機能
 - *2 「公文書館機能」：府が保管する公文書その他の記録（現用のものを除く。本編では「公文書」という。）を歴史資料として保存し、利用に供する機能
 - *3 「図書館機能」：図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保有して、一般の利用に供し、教養、調査研究に資する機能

学生だけでなく幅広い府民が交流し、ともに学ぶ京都市北山地域において、府立大学をはじめ周辺施設と連携しながら、京都の学術や文化を世界に発信する積極的な役割を果たすことが求められています。

こうした課題を解決するためには、施設が老朽化していることなどから、府立大学をはじめ周辺地域としっかりと機能連携できるよう、新たな施設整備を図る必要があります。

新たな総合資料館の基本コンセプト・施設整備

新たな総合資料館の基本コンセプト

「京都に関する資料を収集・保存・提供する拠点」として、京都と日本の学術・文化の振興に貢献するとともに、だれもが身近に利用できる施設として府民ニーズに応えます。

基本コンセプト実現のために担うべき5つの役割

京都に関する歴史・文化関係資料の収集・保存とデータベースの構築

歴史的に重要な公文書をはじめ、古文書、図書等の京都に関する資料を重点的、積極的に収集・保存し、府政の歩みや人々の営みを未来に伝えるとともに、だれもが幅広く活用できるデータベースとして整備・発信します。

京都に関する専門研究の振興

府立大学をはじめ、他の大学等の研究機関・研究者の協力・参画を得て、協働しながら、専門研究の一層の振興を図ります。

生涯学習等の支援

学生、シニアをはじめ様々な世代の生涯学習ニーズに応じて、個人だけでなく自主研究サークル等に活動の場や成果発表の機会を提供し、多様な世代の自主的・主体的な研究や学習を支援します。

次世代の教育支援

資料館の所蔵する資料等を活用して、わかりやすい展示や講座を実施し、次世代が京都の歴史や文化に興味を持ち、理解を深められるよう支援します。

ネットワーク機能の強化

府立大学等の周辺施設や郷土資料館、歴史資料館等とのネットワークを強化し、様々な主体と連携しながら、北山地域から、京都の歴史・文化の振興・発信の積極的な役割を發揮します。

新たな施設整備

基本コンセプトを踏まえ、貴重な資料等の良好な保存環境を確保するとともに、府立大学をはじめとする大学等の研究機関や周辺施設等と連携・協働しながら、所蔵資料の価値を最大限府民に還元できるよう、北山地域において新たな施設整備を図ります。

1. 京都に関する歴史・文化関係資料の収集・保存とデータベースの構築

～ 過去に学び、未来を考える「礎^{いしずえ}」を残し、伝える ～

歴史・文化関係資料の現状と収集の方向性

公文書

意義

公文書は、府政が、時々の課題に対してどのように取り組んできたかを示す記録であり、府民にとって、重要な資料であります。こうした京都府政と府民の歩みを記録する貴重な歴史資料である公文書を的確に収集し、保存し、広く利用に供することは、行政の利・活用はもとより、府民の知る権利を保障し、現在及び将来の府民への行政の説明責任を果たす上で、極めて重要です。

公文書は、府民が共有すべき財産であり、現在、総合資料館が担っている公文書館機能をさらに充実していくためには、公文書が作成される段階も視野に入れた収集・保存・利用のシステム化を一層図る必要があります。

現状

- ・「京都府行政文書」(京都府開庁～昭和21年までの府公文書群、全国自治体初の国重文に指定) 約15,000冊
- ・その他の府公文書 約46,500冊

収集・保存の方向性

収集対象を、京都府庁知事部局本庁だけでなく地域機関や府議会、各種行政委員会の作成文書まで拡大し、「オール京都府」の公文書を収集するシステム化()を図ります。

電子決裁による公文書や府ホームページ等での各種情報については、国における電子媒体の保存等についての検討状況も見極めながら、早急に、効果的な対策について検討します。

システム化の方向性

- ・総合資料館が収集する公文書の明確な基準の作成・公表
 - ・公文書の選別・収集、廃棄等の権限を明確化
 - ・的確な管理・保存と選別収集のため、「中間書庫」機能を可能な範囲で導入
- *「中間書庫」機能とは

公文書を的確に管理保存するため、作成後の早い時期から集中管理し、文書管理業務の効率化を図るとともに、良好な環境の下で保管し、評価選別を行い、後世へ残すべき文書の公文書館への移管を容易にする機能

歴史資料

現状

- ・古文書(東寺百合文書(国宝)約18,000点、革嶋家文書(重文)約2,100点)等 約81,700点
- ・近代文学資料(天眠文庫資料、吉井勇資料等) 約23,500点
- ・写真資料(黒川翠山写真資料、矢野家写真資料、府旧館創建当時記録写真等) 約6,700点

収集・保存の方向性

京都に関する歴史資料の収集に積極的に取り組むとともに、詳細な目録整備を進め、郷土資料館や歴史資料館と連携して、膨大な資料の中から知りたい情報に円滑にアクセスできるよう努めます。

図書資料

現 状

・京都資料（京都の歴史・地誌、年鑑等）	約 41,000 冊
・官庁資料（府統計書、国勢調査、各種統計資料等）	約 92,000 冊
・人文資料（日本の歴史・宗教、美術工芸等、参考図書）	約 60,000 冊
・古典籍（平家物語諸本等の貴重書、御伽草子等の準貴重書）	約 70,400 冊
・吉田文庫等の寄贈図書群	約 32,000 冊
・逐次刊行物（雑誌、新聞）	約 6,000 タイトル

収集・保存の方向性

京都に関する図書・資料の収集・保存に専門化・重点化します。

資料の収集目的を明確にし、積極的な収集に取り組みます。

円滑な利用を促進するための取組

公文書の閲覧は、学術研究はもとより、誰でも気軽に利用できる制度にします。

公文書・歴史資料・図書等の目録整備を進め、インターネットで配信します。

さらに、資料の性格等を勘案し、必要なものは、より詳細な目録や画像情報も併せて配信するなど、良好な閲覧利用環境を整備します。

貴重な資料や損傷が予測される資料については、気軽に閲覧いただけるよう、電子データ等の「複製物」を作成します。

調査研究を支援するため、レファレンス（必要な資料や情報を的確に案内）を充実します。

貴重な資料を確実に未来に残すための取組

保存科学の成果を踏まえ、資料の保存・修復手法を検討・実施するとともに、良好な保存環境の確保に向けた検討を行います。

貴重な資料や損傷が予測される資料については、原則として複製物を閲覧いただくこととし、原本は的確に保存します。

2. 京都に関する専門研究の振興

～ 幅広い研究機関・研究者との協働 ～

京都に関する専門研究の一層の振興を図るとともに、その成果を幅広く府民に還元します。

- ・所蔵資料に関する調査・研究を行います。
- ・他の大学等の研究機関・研究者の理解・参画を得て、協働しながら、高度な専門研究を推進する適切なシステムを構築します。

日本史研究にとって貴重な史料を多く含んでいる東寺百合文書の^{ほんこく}翻刻*4 出版など研究支援の充実を図ります。

3 . 生涯学習等の支援

～ だれもが身近に京都の歴史・文化を学ぶ場を提供 ～

京都の歴史や文化を様々な切り口から紹介する展示・講演等を充実します。

学生をはじめ幅広い世代の人々が京都や日本に関する歴史や文化について学べるように支援するとともに、自主研究サークル等の活動について、学習スペースの提供、「自主企画による展示会」や「館との共催展」の実施などの支援を行います。

幅広い世代の学習ニーズに対応した、インターネット展覧会や講座等を実施し、府内外を問わず良好な学習環境を創出します。

4 . 次世代の教育支援

～ 「ほんまもん」の資料で、子どもたちが京都の歴史・文化を実感 ～

小・中・高等学校等、学校教育と連携して、貴重な歴史・文化関係資料そのものを実際に見ることにより、人々の営みを知り京都の文化や歴史の歩みを実感してもらいながら、興味深くわかりやすい展示や講座を実施します。

5 . ネットワーク機能の強化

～ 北山地域から、京都の学術・文化を発信 ～

より多くの人に来館いただけるよう、各種出版物等の内容を充実し、所蔵資料の魅力を発信するとともに、展示会・講演会等の館の活動に関する広報を積極的に行うなど、館の魅力を幅広く発信します。

府立大学等の周辺施設との連携を図り、共同研究や共同事業を進め、北山地域から京都の学術・文化を世界に発信します。

郷土資料館や歴史資料館等とのネットワークを強化し、情報交換、共同事業の開催、協力支援等を推進します。

府立図書館、市町村立図書館との連携による閲覧・利用サービスを推進します。

*4 「翻刻」：原文を現代文字に置き換えるとともに、年代や背景等の情報を注記として付すこと

今後検討すべき課題

新たな施設整備に向けた基本構想の策定

公文書の収集・保存・利活用のシステムの構築

所蔵資料の詳細な目録の作成、電子データ化などの資料の複製化

根拠となる条例等の整備（ふさわしい名称、機能・役割の明確化など）

資料館に収納されている諸資料の効果的な展示機能のあり方

実施体制の整備

- ・ 高度な専門研究を推進する適切なシステムの具体化
- ・ 有識者から、館の運営に対する助言をいただくシステム
- ・ 館の利用者や有識者などから、幅広く館の運営に対する意見や評価をいただくシステム
- ・ 自主研究サークルやボランティアなど様々な主体の理解・協力を得て、館の運営にも参画いただけるような方策
- ・ 組織運営体制の充実・強化（専門職員の育成等）

【 参考 】 委 員

委 員	有 識 者	井口 和起（京都府特別参与）（座長） 上田 純一（京都府立大学文学部教授） 藤井 謙治（京都大学大学院文学研究科教授） 吉澤 健吉（京都新聞社編集本部報道局次長）
	行政関係者	辻 逸司（京都府立総合資料館長） 山口 寛士（京都府府民労働部次長） 山崎 達雄（京都府立大学事務局長）
内部ワーキングオブザーバー		小林 啓治（京都府立大学准教授）

検討経過

	開催年月日	主な検討内容
第1回	平成19年5月23日(水)	・ 歴史的文書のアーカイブ機能 ・ 所蔵資料の調査、研究機能
第2回	平成19年6月13日(水)	・ 論点の整理
第3回	平成19年7月 4日(水)	・ 館内・所蔵資料視察 ・ 総合資料館が持つべき機能(1)
第4回	平成19年7月17日(火)	・ 総合資料館の持つべき機能(2)
第5回	平成19年7月30日(月)	・ 「中間まとめ」骨子案(1)
第6回	平成19年9月 5日(水)	・ 「中間まとめ」骨子案(2)
	平成19年11月8日(木)、9日(金)	・ 神奈川県立公文書館、埼玉県立文書館、国立公文書館視察
第7回	平成19年11月22日(木)	・ 「総合資料館あり方検討プラン(案)」

開催場所：総合資料館 2階会議室

総合資料館の概要

施設名	京都府立総合資料館		
設置根拠	京都府立総合資料館条例（昭和38年京都府条例第29号）		
開設年月	昭和38年11月	運営方式	直営
設置目的	京都に関する資料等総合的に収集し、保存し、展示して調査研究等一般の利用に供する。（条例第1条）		
施設規模	敷地面積：13,912㎡ 延床面積：13,743㎡ <図書閲覧室：290席 文書閲覧室：35席 学習室：140席>		
業務概要 (年度)	1 開館日数 319日		
	2 利用者数 80,486人		
	図書閲覧室	52,461人(1日当たり：164人)	
	文書閲覧室	2,373人(同：7人)	
	学習室	25,652人(同：80人)	
	3 資料収集		
	8,597冊(点)を収集		資料総数 561,433冊(点)
	図書資料	5,603冊	
	文書資料	2,878冊(点)	
	現物資料	116点	
	4 資料利用		
	特別複写・利用	195件	
	複写	14,107件	
	館外貸与	14件	
	5 相談		
図書資料	2,075件		
古文書	20件		
6 展覧会・講演会・古文書解読講座			
展覧会	3回(延 5,106人)		
府民講座	9回(延 1,091人)		
古文書解読講座	4コース(延 231人)		
7 共同研究等(連携)			
府立大学	近世広域行政機関(京都町奉行所等)文書の研究		
科研費研究	京都府行政文書を中心とした近代行政文書についての史料学的研究		
府大ACTR	京都府内の歴史文化関係機関の所蔵する歴史文化資料の評価とその総合的利活用システムの構築に関する研究		
立命館大学	総合資料館所蔵資料のIT技術を活用した発信・公開システムの開発研究 「かわら版」、「堂本寒星旧蔵演劇資料」		
8 ホームページ等			
・デジタル展覧会の実施、メールマガジンの創刊(13号)			
・新聞連載：「古典籍をあじわう」「雑学京都史」			

総合資料館利用状況等

閲覧利用等

(席・人)

	席数			
図書閲覧室	290	61,541	56,311	52,461
学習室	140	30,444	26,382	25,652
文書閲覧室	35	2,407	2,323	2,373
計	465	94,392	85,016	80,486
図書資料相談者数		15,876	14,006	13,660

展示会・講演会等 ()

展示会	収蔵品展	33日	1,887人
	東寺百合文書展	30日	1,415人
	企画展(先人達の京都研究)	35日	1,804人
講座	資料館府民講座	9回	1,091人
	古文書解読講座(一般・初心者)	各2回	231人、延822人

(1コース4日)

インターネット配信等 ()

京都北山アーカイブズ	20,773点	うち1,169点はウェブ公開
デジタル展覧会	先人達の京都研究 総合資料館収蔵品展 馬の人形展	(実施 展示会) (実施 展示会) (実施 展示会)
府民講座(実施の1講座)	江戸時代の平安京研究	府HPインターネット放送局配信
「珍事集」と「堂本寒星旧蔵芝居番付」	珍事集 226点 芝居番付 503点	立命館大学との共同作業
総合資料館だより	年4回発行	他に紙ベースでも
貴重書データベース	160点	(所蔵貴重書 600点のうち)
メールマガジン発行	隔週水曜発行	18.10～(19.3.31現在284部発信)

新聞掲載・発行等

「古典籍を味わう～総合資料館の書庫から～」掲載	19年3月～	京都新聞連載(第2・4木曜) 府立大学教員と職員との共同執筆
「雑学京都史」	19年3月～	京都新聞 毎月第4水曜
東寺百合文書翻刻出版	第4巻発刊	< 第5巻予定 >

友の会

会員 342人 ()

現地講座、見学会、展示会列品解説、資料館だより送付 等

資料の貸与等 ()

図書資料：7件 67冊(丹後・山城資料館、城陽・南丹市日吉町・亀岡郷土資料館等)

古文書：6件 19点(越前町、亀岡市、豊橋市等)

近代文学資料：1件(堺市 与謝野晶子文芸館)

現物資料(美術品)：31件、2801点(砺波、高知、府中市、迎賓館等)

図書館相互貸借 ()

貸出：30館 89冊 借入：4館 31冊

他に国立国会図書館関西館から 5件9冊の借受

大学との共同研究等 ()

府立大学：「近世広域行政機関(町奉行所)文書の研究」、史科学研究「府行政文書」
地域貢献型研究への参画

所蔵資料の状況

古文書、行政文書、近代文学資料等

区 分	点 数	収集経路等	主な資料
古文書	81,735	<ul style="list-style-type: none"> ・購入（東寺百合文書） ・寄贈（革嶋家文書 等） ・寄託（随心院文書 等） 	古代・中世文書 ・東寺百合文書（国宝）約 18,000点 ・革嶋家文書（国重文）約 2,100点 近世・近代文書 ・近世領主文書 幕府機関、藩関係、朝廷関係、寺社関係の文書 ・近世村・町文書 行待家、宮本守三家、真町文書、塩屋町文書等 ・近世・近代私文書 紅花問屋最上屋喜八家、米穀商鈴木家
行政文書	61,547冊	京都府文書の保管保存等に関する規程 ・移管（永年文書） 完結後 25 年経過 ・引渡（有期限文書） 主務課と協議	「京都府行政文書」（国重文）
近代文学資料	23,547	寄贈	天眠文庫資料 小林政治（号：天眠）氏の活動・交流の中で集まった資料（書状、函書、雑誌等） 吉井勇資料 吉井勇氏の手元で保存されていた資料（手紙、原稿、写真、書籍等）
写真資料	6,768	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府が保管 ・ 寄贈 	黒川翠山撮影写真資料（2,031 点） 黒川翠山氏が明治末期から昭和初期にかけて撮影（京都の社寺、風景、風俗等） 矢野家写真資料（264 点） 矢野豊次郎氏が撮影した祭礼、風俗等の写真や明治15年前後に撮影された京都の風景写真を収集した資料 松尾建収集写真資料（163 点） 明治後期から大正期にかけて京都のアマチュア写真家が撮影したスナップ写真 武部正「関東大震災」写真資料（34 点） 旧一号書庫写真資料（786 点） 京都府が明治初期から大正初期にかけて撮影・収集した府内各地の記録写真 京都府庁旧館創建時等写真資料（111 点） 京都府が保管していた明治37年に竣工した旧館創建時の記録写真や知事官舎等の記録写真

図書資料の状況

区 分	冊 数	主な書籍（例示）	
京都資料	41,000	京都叢書、京都年鑑、京都の歴史、京都府人物・人材情報リスト、京都府文学全集、京都大学百年史、宮津市史、大宮町誌、西陣年鑑	
官庁資料	京都官庁	22,000	京都府統計書、府内市町村統計書、市場年報、有価証券報告書（府内企業）
	国・他府県	70,000	国勢調査、商業統計、工業統計調査、学校基本調査、地価公示
人文資料	日本の歴史・宗教	60,000	大日本史料、大日本古文書、大日本古記録、平安遺文、鎌倉遺文、国史大辞典、神道体系、大日本仏教全書、大蔵経
	美術工芸、伝統芸能		世界美術全集、日本古寺美術全集、古画総覧、陶磁大系、日本の文様、日本美術レファレンス辞典
	参考図書		群書類従、古事類苑、国書総目録、辞書・事典全情報、日本文庫史研究、冷泉家時雨亭叢書
古典籍	貴重書	4,400	平家物語諸本、古活字版諸本、人車記、大内裏図考証、塵海、琵琶湖疏水図誌、あつもり（奈良絵本）
	準貴重書	66,000	萬寶料理箱、寛永新刊吾妻鏡、御伽草子、古事記伝、中右記、本朝世紀、学習院書目、秋のともし火
文庫資料	32,000	吉田文庫、河上文庫、石井資料、蜷川統計学文庫、及川資料	
逐次刊行物	雑誌	5,500 タイトル	月刊京都、京都民俗、史学雑誌、芸術新潮、金春、西陣クラブ
	新聞	500 タイトル	京都新聞、あやべ市民新聞、洛南タイムズ、城南新報、京都教育、中外日報